No.23
あすなろだより

2005年３月15日　発行　三重県立小児心療センター　あすなろ学園　広報担当
〒514－0818 三重県津市城山１-12-３　TEL. 059-234-8700　FAX. 059-234-9361

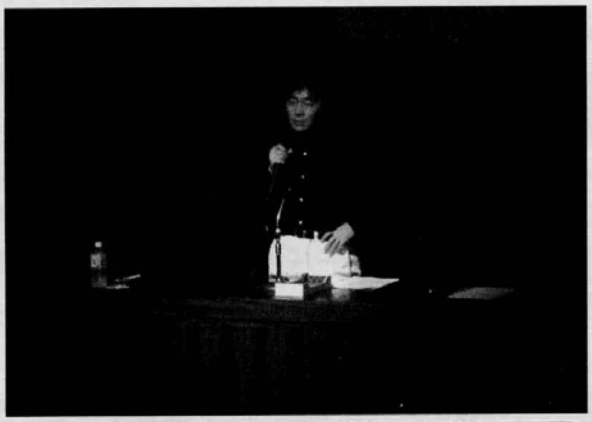
合同講演会・シンポジウム報告特集号

２００４年７月２７日、三重県総合文化センター中ホールにて　あすなろ学園と三重県自閉症・発達障害支援センターの合同主催による、講演会とシンポジウムを開催しました。今回は午前に「高機能自閉症・アスペルガー症候群への理解と対応」、午後には基調講演に斎藤環氏をお招きして「不登校・家庭内暴力・引きこもりからみえてくるもの」と２つのテーマについて行ないました。今回はその様子について特集します。

第２部より

基調講演

「引きこもりからみえてくるもの」



＜講師紹介＞

斎藤　環　氏

爽風会佐々木病院（千葉県船橋市）心療部長

岩手県生まれ。筑波大学医学専門学部卒業医学博士。専門は思春期・青年期の精神病理学、病跡学ラカンの精神分析。「ひきこもり」研究の第一人者であり、「社会的ひきこもり」問題の治療支援に取り組む傍ら、執筆活動や講演活動をこなされています。

＝序論＝

こんにちは、佐々木病院の斎藤です。

私は、引きこもりという問題が一過性の流行物と理解されていることをたいへん懸念していますが、引きこもりと不登校とは連続的な問題と言っていいと思います。非社会的問題行動の最も突出した部分と考えていただければよいかと思います。引きこもり問題というのは７０年代後半からずっとある問題です。社会的な場面に現れにくく目に見える形でないと認識されにくいせいか、ブームになったのは、犯罪とか事件が先行し、その火消し役みたいな形で専門家が呼び出されたためでしょう。最近の統計では、全ての不登校児の１～２割の割合で長期化し、いわゆる引きこもり化するという結果があります。逆に引きこもり事例の厚生労働省の調査では、６１％が過去に不登校経験があるということですから大変密接な関係であるといえるでしょう。